

家族と健康

健康教育情報紙

一般社団法人 日本家族計画協会
 リプロ・ヘルス推進事業本部
 健康教育推進本部
 協力：公益財団法人予防医学事業中央会
 〒162-0843 東京都新宿区市谷町1-10 保健会館新館
 電話03(3269)4727 FAX03(3267)2658 http://www.jpfa.or.jp
 発行人：北村 邦夫 編集人：櫻田 忠宏 henshu@jpfa.or.jp
 毎月1回1日発行 年購読料¥3000+税 1部¥300+税千共

- JFOAは7Aの実現を目指します!
- ① Adolescent 思春期保健の推進
 - ② Abortion 人工妊娠中絶の防止
 - ③ Access どこでも誰もがサービスを受けられる
 - ④ Advocacy 啓発・提言活動
 - ⑤ AIDS STI及びHIV/エイズの予防
 - ⑥ Ageing 高齢化社会対策
 - ⑦ Abuse 児童虐待の防止

家族計画研究センター 2015年度 事業実績報告

思春期や不妊・不育、女性の健康相談事業多数、セミナーで児童虐待防止

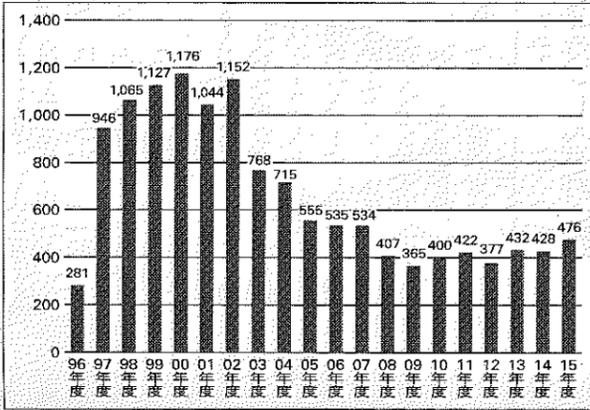


図1 東京都不妊・不育ホットライン相談件数の年次推移(件)

表1 東京都不妊・不育ホットラインの相談内容の推移(%)

	全体	96-00年度	01-05年度	06-10年度	11-15年度
合計	13,205	4,595	4,234	2,241	2,135
病院情報	12.2	14.9	12.6	9.8	8.4
体外受精/顕微授精	9.5	6.3	8.2	14.3	13.9
検査	7.6	9.5	6.4	6.9	6.5
薬	5.6	6.4	6.7	4.8	3.0
月経・基礎体温など	5.6	5.7	7.3	4.5	3.5
セックス	3.9	3.2	4.0	4.9	4.4
不妊症(習慣流産)	3.3	3.0	1.7	1.5	9.2
AID	3.2	3.3	3.1	3.8	2.3
男性不妊	2.7	2.9	2.5	2.7	2.4
内服薬・筋腫など	1.4	1.5	1.4	1.9	0.9
AID	1.1	1.1	1.3	0.9	0.7
助成金について	0.5	-	-	-	3.2
代理母・卵提供	0.4	0.4	0.5	0.4	0.4
流産	0.2	-	-	-	1.5
その他	8.6	7.5	7.9	12.0	9.1
治療への迷い	23.1	25.1	26.2	19.9	15.8
不妊への不安	14.2	15.8	14.6	13.1	10.8
病院への不満	11.4	12.1	10.3	11.8	11.6
費用	1.6	0.9	1.1	3.0	2.4
仕事との両立	1.0	0.7	0.6	0.8	2.5
治療のやめ時	0.3	-	-	-	1.8
その他	1.5	1.2	1.5	1.8	1.8
自分自身のこと	18.2	21.7	16.7	16.5	15.3
周囲との人間関係	9.1	6.6	9.3	12.8	10.5
夫とのこと	9.1	6.7	7.2	14.4	12.3
子どものいない人生	2.4	1.2	2.6	3.9	2.9
妊娠・出産・育児	1.1	1.2	1.2	1.1	0.5
2人目不妊	0.7	-	-	-	4.1
養子	0.3	0.3	0.4	0.2	0.2
娘・息子のこと	0.1	-	-	-	0.7
その他	2.2	1.5	2.1	3.7	2.4

不妊・不育相談20年で13万件
 1997年2月にスタートして20年が過ぎた。2015年度は「東京都不妊・不育ホットライン」は、000年度に1176件、15年度は476件と減少傾向にある。相談件数の減少は、1. 相談件数の減少は、多数ある不妊治療施設での相談事業が日常化していることなどが原因となっていると思われるが、本会の役割がなくなったわけではない。20年間を振り返ると「周囲との人間関係」が増加し、「自分自身のこと」が減少していることが目立つ。

本会クリニック・家族計画研究センターの事業実績を本紙「家族と健康」で紹介し始めてから、これが28回目となる。言い換えれば、筆者が本会のクリニック所長に就任した1988年から28年が経過したことになる。本会のクリニックが果たしてきた思春期婦人科外来や避妊外来などは近隣のクリニックでの日常診療になっていることから、診療実績は以前に比べて低調だが、電話相談の開設、調査研究、セミナーの企画運営、メディアでの発信、厚生科学審議会などの各種委員会への出席、アドボカシー(政策提言)など、従来にも増して過密なスケジュールに振り回されている。以下、2015年度の本会家族計画研究センターの1年間の活動をあらためて振り返ってみよう。

(本会家族計画研究センター所長 北村 邦夫)

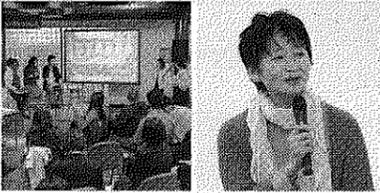
「知りたいこと」が増加傾向にある項目を見ると、「体外受精/顕微授精」(14.2%)、「病院情報」(12.2%)、「不妊への不安」(11.4%)、「治療への迷い」(23.1%)、「自分自身のこと」(18.2%)、「不妊への不安」(14.2%)、「病院への不満」(11.4%)、「費用」(1.6%)、「仕事との両立」(1.0%)、「治療のやめ時」(0.3%)、「その他」(1.5%)、「自分自身のこと」(18.2%)、「周囲との人間関係」(9.1%)、「夫とのこと」(9.1%)、「子どものいない人生」(2.4%)、「妊娠・出産・育児」(1.1%)、「2人目不妊」(0.7%)、「養子」(0.3%)、「娘・息子のこと」(0.1%)、「その他」(2.2%)。

「孤食」30.8%、食品の購入はドラッグストアが34.2%と、若者の食文化が多様化してきている。死因の約6割が国民医療費の約3割を占めている生活習慣病。国民一人一人がその発症や重症化の予防を行うことが急務になっており、その行動変容には支援が欠かせない。特に食育は、日常生活の基礎だ。家庭において、確実に実践していくことが求められる。これからの親になる世代のこのような食生活の実態を考えると、朝ご飯を食べない子、作らない親を支援する「朝ご飯を食べない親を支援する」など、従来と違う「新しい視点」での健康教育への発想の転換が重要になってきた。情報提供や支援をいかに実践していくか、支援者の腕の見せどころだ。本会もセミナーや教材を通じて「新しい視点」をお届けしたい。(HM)

今月のページ

- 妊娠中から産後のマイナートラブル他
- LGBTを切り口に
- 今後の学校教育について考える他
- 本会家族計画研究センター
- 2015年度事業実績報告(1面の続き)
- 職域保健の現場から
- シリーズ遺伝相談
- 海外情報クリップ他
- 産婦人科医による性の健康教育

8面:7面:6面:4~5面:3面:2面



(3面) (2面)

トピック

子どもの数 1605万人 35年連続の減少

総務省統計局まとめ

総務省統計局は、2016年4月1日現在の子ども数(15歳未満人口)を推計した。昨年(2015年)に比べて1605万人と、1982年から35年連続の減少。過去最低となった。男女別では、男子が822万人、女子が783万人と、女子に比べて過去最低となった。国連人口統計年鑑(2014年版)によると、世界の子ども数(15歳未満人口)は、米国19.2%、フランス18.5%、英国17.7%、中国16.5%、ロシア16.3%、韓国14.3%、イタリ13.8%、ドイツ13.1%となっている。

ピル・わかるページ
 Life Design Drug Pill

ピルは女性の人生設計をサポートしてくれる薬です。一緒にピルに関する正しい知識を身に付け、これからのライフデザインを描いてみませんか?

まずはアクセス!!
<http://www.pill-page.com/>

科研製薬株式会社 〒113-8650 東京都文京区本駒込2丁目28-8 <http://www.kaken.co.jp>

ピルってなに? ピルのこと、もっと知りたい!

ピルをのんだらどうなるの?

2016年1月作成 TS122-16A-C01

妊娠中から産後のマイナートラブル

アロマ&ハーブを使ったナチュラルケア

第42回 母子保健指導員研修会

本会母子保健指導部が主催する第42回母子保健指導員研修会が、4月12日にTKP市ヶ谷カンファレンスセンター(東京都新宿区)で開催された。今回は「妊娠中から産後のマイナートラブルアロマ&ハーブを使ったナチュラルケア」の題で、助産師でアロマセラピスト・メディカルハーバリストの浅井貴子氏が講義を行った。



浅井貴子氏

アロマセラピーは欧州一般的になりつつある。や中近東などで伝統医学として受け継がれてきた歴史を持つ治療法だが、近年は日本でも取得する助産師が増えているという。

妊娠期のマイナートラブル対策として挙げられるのは、アロマオイルを使った妊娠線マッサージや乳房ケア、会陰マッサージなど。マッサージに加え、会陰部にオイルを塗り込んだコットンや貼付ける「オイル湿布」は効果的で、1週間ほど皮膚が柔らかくなり、高齢の出産でも会陰切開を回避することもある。また氏は説明した。

産後のマイナートラブルとしては会陰切開部痛、痔、下肢の浮腫などのほか、産後うつや不眠、不安感といったメンタル不調が挙げられた。浅井氏は、下肢の浮腫の悩みは多く、ジェニパーという、体内の細胞外液を排出する働きのある精油を使ったマッサージが効果的と語った。また、それ以外にもフットバスや下肢の圧迫着などが有効という。

母子保健指導者養成研修

テーマ・開催時期が決定

厚生労働省 厚委

本会は昨年度に引き続き、厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課より「母子保健指導者養成研修等に係る研修等ポイント」についての研究実施業務」の事業を受託。これにつき、本事業に関する委員会が5月16日に保健会館新館(東京都新宿区)で開催された。

本年度の「母子保健指導者養成研修」は、①「健やか親子21(第2次)」と母子保健計画の策定・評価、母子保健情報の活用についての研修

策定・評価、母子保健情報②「乳幼児健康診査における評価と保健指導のポイント」についての研究③「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」についての研修④「子ども心の診療医」養成研修⑤不妊・不育相談支援研修⑥母子感染の予防と対策についての研修会(テーマ表)となる。

2016年度 母子保健指導者養成研修開催予定

開催時期	2016年7~8月
開催地	仙台・東京・大阪・福岡 ※東京は2回
対象者	都道府県・市町村の母子保健担当者で中核的な役割を担う職員
研修内容	「乳幼児健康診査における評価と保健指導のポイント」についての研修
開催時期	2016年7~9月
開催地	仙台・東京・大阪・福岡 ※東京は2回
対象者	乳幼児健康診査に関わる者(保健師、助産師、看護師など)
研修内容	「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」についての研修
開催時期	2016年9~10月
開催地	東京・大阪
対象者	子育て相談等を行う保健師、助産師、看護師、保育士など
研修内容	「子どもの心の診療医」養成研修
開催時期	2016年9~11月
開催地	東京
対象者	一般小児科・精神科医師、学校医
研修内容	不妊・不育相談支援研修会
開催時期	2016年10~12月
開催地	東京
対象者	専門相談員、母子保健行政担当者
研修内容	母子感染の予防と対策についての研修会
開催時期	2016年10~12月
開催地	東京
対象者	母子感染に関わる保健師、助産師、看護師など

厚生労働省は5月23日、2015年の人口動態統計(概数)を発表した。これによると、1人の女性が生涯に産む子どもの推定人数を表す合計特殊出生率は1.46で、9年ぶりに下がった前年(1.42)を上回った。都道府県別では最高は沖縄の1.94で、最低は東京の1.17。政府は「希望出生率1.8」の実

合計特殊出生率1.46に 人口自然減28万人

現を目標に掲げている。出生数は100万5656人で、前年より2117人増加。5年ぶりに増加に転じたが、過去2番目に低い人数だ。死亡数は129万428人で、前年より1万7424人増加。死亡数から出生数を引いた人口の自然減は、28万4772人で、過去最大となっている。

侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD) ワクチン接種で感染予防を

侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD)は、早ければ24時間以内に死亡する可能性がある疾患だ。WHO(世界保健機関)の統計でも、5~10%の方は、早期に適切な治療をされても24時間から48時間以内に亡くなってしまう。この間にほとんど進行してしまう。その後、呼吸困難や下痢、さらに皮膚色の異常が起きたり、最悪の場合、死に至る。感染はペットボトルの回収飲みや食器の共有などでも起こる。髄膜炎菌は無症状の保菌者もいるため、集団生活の場では特に感染が広がりやすい。初期症状の段階で受診することが重要だが、IMDの診断は難しく、医療者が早期にIMDの適切な対応をとれない場合がほとんどだという。日本では昨年5月からワクチンの接種が可能となった。発症は5歳未満と10代後半に多いため、寮生活を始める前や、海外留学の前などは特にワクチンの接種が重要だ。髄膜炎菌のワクチンは病院によって用意がない場合もあり、事前の確認がトランプルニックの受診が勧められる。

Seminar Information

第21回 プラスワンセミナー

第21回目の開催となる本セミナーは、「マンネリ化した保健指導からの脱却」をテーマに開催いたします。対象者の行動変容を促す「攻め」の保健事業に必要な専門職の役割について、古井祐司氏(東京大学政策ビジョン研究センター特任助教)に詳しく説明いただきます。また、大平哲也氏(福島県立医科大学医学部疫学講座主任教授)には、「笑い」を生かした生活習慣病予防、松平浩氏(東京大学医学部附属病院22世紀医療センター運動器疼痛

第12回 「ピアカウンセリングセラピー養成者」養成セミナー

ピアカウンセリング手法は、「思春期保健」だけではなく、「健康教育」の領域でも注目を浴びており、「仲間」をキーパーソンに当事者が主体となった取り組みや活動として、全国的に普及・実践されています。本セミナーでは、多領域で本手法を用いた健康教育や相談活動ができる「ピアカウンセリングセラピー養成者」を養成します。【開催日】前期7月1日(日) 後期11月26日(日) 【会場】保健会館新館(東京都新宿区) 【受講料】前期7万2千円 後期4万4千円(税込) 【プログラム】ピアカウンセリングの目的と具体的な展開、エンカウンター演習、コ・カウンセラー実習、他 【講師】高村寿子(自治医科大学名誉教授)、他2人 【対象者】心身ともに健康で、受講後、関連領域でピアカウンセリングの養成ができる者、または、養成を検討している者で、次の①②③のいずれかに該当する者。 ①思春期保健相談士または当該分野に関する研修会の修了者 ②教育機関等で、セクシュアリティまたは当該分野の教授、研究者 ③思春期または当該分野で対象となる人々について理解し、これまでに支援活動などを行っている者

本会主催セミナーのお問い合わせは

TEL 03(3269)4785

FAX 03(3267)2658

かんたん! 詳しい情報も

本会HPからWEB申し込みができます。

JFPA セミナー 検索

WEB申し込みが 変わりました!

WEBでお申し込みの際は、会員登録をお願いします。お申し込みがより簡単、スピーディーになります!

*詳しくは本会HP「セミナー情報」をご覧ください

LGBTを切り口に 今後の学校教育について考える

東京レインボープライド2016 シンポジウム

4月29日から5月8日にかけて、セクシュアルマイノリティのためのイベントである「東京レインボープライド2016」が開催された。5月7日のフェスタ、8日のパレードに先駆けて「レインボーウィーク」として、講演や勉強会、パーティーなど60を超える催しが行われた。その中から、5月1日にJICA地域ひろば（東京都新宿区）で開催されたシンポジウム「LGBTを切り口に今後の学校教育について考える」（主催：NPO法人東京レインボープライド）を紹介する。

子どもたちが相談しやすい環境づくりを

元養護学校教諭で中野区議会議員の石坂わたる氏が司会を勤め、パネラーとして、やっば愛タホー（yabba）、代表でFTMトランスジェンダー（自認する性は女性で身体的な性は男性）当事者である遠藤まめた氏、国際NGOヒューマン・ラ

イツ・ウォッチ日本代表の土井香苗氏、渋谷区教育委員会教育センター調査研究員の長野泰紀氏、東京都公立小学校教諭でLGBT教育を実践している若木牧紀氏の4人が出演した。

「LGBTの子どものためには、自分が周りや周囲の人と違うことに気が付いたとき、全く情報を得られない傾向がある。打ち明けたら

きに親や友達が理解してくれないと限らず、家や学校で安心して暮らせないのでないかと思ってしまうことが多い」

各パネラー講義において遠藤氏は、こう語る。またいじめについては、1年以上の長期にわたるものや、暴力や金銭を伴うような深刻ないじめには共通して、教師が止めなかつたり、一緒になつてからかつたりなど、むしろいじめに加担している場合があるという。被害

者がLGBTの場合は、特にそのような状況になりやすいと説明した。LGBTの子どものための現状を、打開するためにできることとして、「相談された後の対応に注目が行きやすいが、相談されるのを待つのではなく、相談しやすい環境や安心できる環境をつくることをよりやるべき」と、遠藤氏は強く訴えた。

自分の子がLGBTである可能性への理解

続いて若木氏は、小学校で実際に行つた授業について報告。授業はジェンダーについての映像教材や多様性についての絵本や教材にし、読み取った内容を児童に話し合わせるものを中心に行つた。この他にも、朝の会や給食時間に、氏がLGBTに関する知識やニュースを話すなどしたという。

こうした教育の結果、児童から「お父さんが2人の家庭でも、一生懸命子どもを育てているのは同じだ」と思つた。「セクシュアルマイノリティの人たちは

「子どもたちの良好な環境を保つためには、本質をどういった意見が出た。対応するべき」（長野氏）との意見のほか、「親は一番子どもを大切にしたいと思う存在だが、一方で子どもをひどく傷つけてしまうこともある。自分の子がLGBTである可能性を理解して親になることが本当に大事で、母親学校や父親学校で情報発信して理解を深める」の題で講演を行います。

「情報を手に入れること。そして、情報の正しい使い方をすることがとても大切です。表面的な知識に満足せず、深く掘り下げ、その知識や情報を基に、自分たちの人生について選択し、決まっていけることが重要です」と述べた。

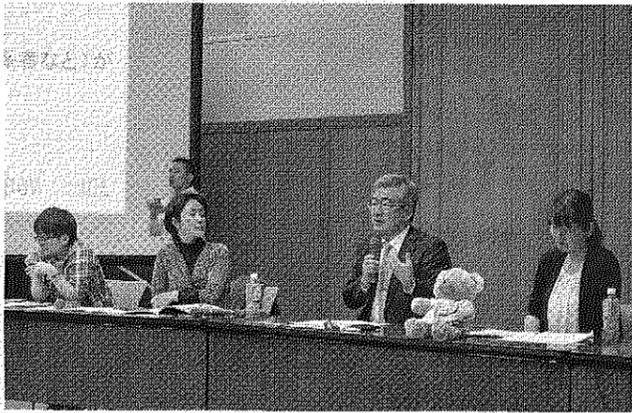
最後に、山崎裕一氏（創価大学3年。セクシユアルマイノリティとその支援者からなる団体「創価 Rainbow Actions」部長）はセクシユアルマイノリティの置かれている状況について語った。

「佐藤、鈴木、田中、高橋という名字の人は合わせて日本人の5%といわれています。一方で、日本でLGBTは7・6%（電通調べ）。日本で多い名字の方々よりも多いということを実感できるでしょうか」と会場に投げ掛けた。

山崎氏自身もゲイであることをその場で公表し、LGBTの人たちが、自分の存在をなかなか打ち明けられないこと、法律や制度によってさまざまな困難があるこ

と、偏見に苦しめられるLGBTの人が、どんなふうに生きていけるかを語り、LGBTの存在を知ってもらつてほしいと述べた。

「LGBTの存在を知ってもらつてほしい」と述べた。



左から遠藤まめた氏、土井香苗氏、長野泰紀氏、若木牧紀氏

LGBTとは レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー（性的少数者）という概念は、これらに加え、性分化疾患やXジェンダー（性自認をどちらかに決定できない人）などを含むが、同義語として使用されることもある。近年では、国際的に性的指向と性自認（および性表現）を表す「SOGI（E）」という語も使われている。

「お父さんが2人の家庭でも、一生懸命子どもを育てているのは同じだ」と思つた。「セクシュアルマイノリティの人たちは



トークセッションの様子

最初の登壇者は、アフ活動を行う組織「ユース・アクション・ムーブメント・イン・ナミビア」代表のヒルカ・グウエタ・アマティラ氏。ナミビアで若者が直面しているセクシュアル・リプロダクティブヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）の問題について語った。

「情報を手に入れること。そして、情報の正しい使い方をすることがとても大切です。表面的な知識に満足せず、深く掘り下げ、その知識や情報を基に、自分たちの人生について選択し、決まっていけることが重要です」と述べた。

最後に、山崎裕一氏（創価大学3年。セクシユアルマイノリティとその支援者からなる団体「創価 Rainbow Actions」部長）はセクシユアルマイノリティの置かれている状況について語った。

「佐藤、鈴木、田中、高橋という名字の人は合わせて日本人の5%といわれています。一方で、日本でLGBTは7・6%（電通調べ）。日本で多い名字の方々よりも多いということを実感できるでしょうか」と会場に投げ掛けた。

山崎氏自身もゲイであることをその場で公表し、LGBTの人たちが、自分の存在をなかなか打ち明けられないこと、法律や制度によってさまざまな困難があるこ

「子どもたちの良好な環境を保つためには、本質をどういった意見が出た。対応するべき」（長野氏）との意見のほか、「親は一番子どもを大切にしたいと思う存在だが、一方で子どもをひどく傷つけてしまうこともある。自分の子がLGBTである可能性を理解して親になることが本当に大事で、母親学校や父親学校で情報発信して理解を深める」の題で講演を行います。

「情報を手に入れること。そして、情報の正しい使い方をすることがとても大切です。表面的な知識に満足せず、深く掘り下げ、その知識や情報を基に、自分たちの人生について選択し、決まっていけることが重要です」と述べた。

最後に、山崎裕一氏（創価大学3年。セクシユアルマイノリティとその支援者からなる団体「創価 Rainbow Actions」部長）はセクシユアルマイノリティの置かれている状況について語った。

「佐藤、鈴木、田中、高橋という名字の人は合わせて日本人の5%といわれています。一方で、日本でLGBTは7・6%（電通調べ）。日本で多い名字の方々よりも多いということを実感できるでしょうか」と会場に投げ掛けた。

山崎氏自身もゲイであることをその場で公表し、LGBTの人たちが、自分の存在をなかなか打ち明けられないこと、法律や制度によってさまざまな困難があるこ

「子どもたちの良好な環境を保つためには、本質をどういった意見が出た。対応するべき」（長野氏）との意見のほか、「親は一番子どもを大切にしたいと思う存在だが、一方で子どもをひどく傷つけてしまうこともある。自分の子がLGBTである可能性を理解して親になることが本当に大事で、母親学校や父親学校で情報発信して理解を深める」の題で講演を行います。

「情報を手に入れること。そして、情報の正しい使い方をすることがとても大切です。表面的な知識に満足せず、深く掘り下げ、その知識や情報を基に、自分たちの人生について選択し、決まっていけることが重要です」と述べた。

最後に、山崎裕一氏（創価大学3年。セクシユアルマイノリティとその支援者からなる団体「創価 Rainbow Actions」部長）はセクシユアルマイノリティの置かれている状況について語った。

あなたの「脳卒中」今後10年の危険度は？

国立がん研究センターは、自分の健診データや生活習慣などを入力することで、今後10年の脳卒中発症リスクが分かるウェブサイトを公開した。同センターはこれまで、喫煙や飲酒、運動などの生活習慣と、がんをはじめとした生活習慣病の発症の関係について、10万人以上のデータを収集し、20年間にわたり追跡調査してきた。このサイトでは、解析に必要な情報のそろった約1万6000人のデータを用い、健診結果や生活習慣を調べた。平均16年の追跡期間で心筋梗塞を発症した192例と、脳梗塞を発症した552例のデータを分析し、リスクの予測に有用な項目を選び出した。こうしたデータを基に、サイト内で入力した自身の情報から、今後10年の「脳卒中発症リスク」が導かれる。この結果から、喫煙習慣のある人には禁煙をしてもらうような行動変容につなげたいと考えた。

URL <https://epi.ncc.go.jp/riskcheck/str/> 脳卒中リスクチェック 検索

家族計画研究センター 2015年度 事業実績報告

1面に続き、本会家族計画研究センターの2015年度事業実績を報告する。
(本会家族計画研究センター所長 北村 邦夫)

(1面の続き)
「病院への不満」などが不妊治療施設での相談内容を把握していないが、本会が治療施設ではないことが「治療以外のつ症状に」(39歳)、「こと」や「治療への迷い」(「不妊への不安」)

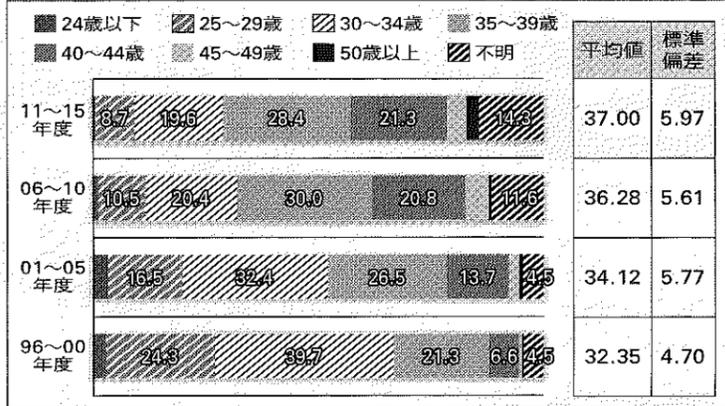


図2 東京都不妊・不育ホットライン相談者の年齢分布の年次推移(件)

「東京都女性のための健康ホットライン」15年度で終了

東京都から委託されて開設していた「女性のための健康ホットライン」は15年度をもって終了した。03~15年度までの13年間に受けた相談件数は6,639件。本会が長年にわたって開設している「思春期・FPホットライン」に女性から寄せられる相談内容とは趣を異にしている。

24時間開設した電話相談

本センターでは一年を通じて各種電話相談を開設している。月曜日から金曜日の5日間、10~16時までの間に、本会が独自に実施している「思春期・FP(家族計画)ホットライン」(2020件)、東京都受託の「東京都女性のための健康ホットライン」(591件)、製薬企業であるパルファム(株)から委託されている「OCサポートコール」(3,097件)、「ミレーナコール」(3,600件)、あすか製薬(株)の「OCコール」(488件)、富士製薬工業(株)の「OCヘルプデスク」(719件)、火曜日のみ開設している「東京都クソ長に就任したのが1

コラム Bさん 右手でLINEを巧みに操る

「診察中、絶えず動き続ける右の。何しているの?」と。手の中にはスマートフォンが返信が遅れると何かと嫌みを言う。ある。「何しているの?」と聞かれたり、怒鳴られたりする。と、「LINE」を巧みに操る。LINEとは? LINEとは、自分と自分と決める。でも、今は診察中じゃないVの典型的なパターンだよ」と「フーと言つ」。ここに挙げたか。しばらく落ちて着いて僕の話 アドバイスしても、「私の全てを聞いてみないか」と返すと、を知っていたという彼の愛情したらデートDV事例と思われ彼からのLINEが引切りなだと受け止めている」と返されるが、いい恋愛とは脅迫や束縛には届くと。今ここにいてあせん。

あなたには次の権利があることを知ってほしいものだ。「対等な人として接してもらおう」「関係に終止符を打つ」「いたわりをもって愛される」「愛される権利がある」と。LINEとは、自分と自分と決める。でも、今は診察中じゃないVの典型的なパターンだよ」と「フーと言つ」。ここに挙げたか。しばらく落ちて着いて僕の話 アドバイスしても、「私の全てを聞いてみないか」と返すと、を知っていたという彼の愛情したらデートDV事例と思われ彼からのLINEが引切りなだと受け止めている」と返されるが、いい恋愛とは脅迫や束縛には届くと。今ここにいてあせん。

コラム うちの娘、まだ高校生ですよ
「お宅のクリニックでは、未と患者についての他言は許されず、お母さん。お子さんがセッ成年者、しかも高校生に避妊薬を出すのですか。親の許可もなしに避妊薬を求め来院。その診察券が部屋に置かれていたことが、興奮気味に電話を掛けた。電話につなぐたつた。母親は、このやりとりが続いた。電話でのやりとり過ぎないか。許可が必要なのではないか。彼日頃からお子さんのコミュニケーションをしっかりと保ってが課されているので、電話口で「母」と言われても、おしそれ要なお金も持参しておられるの

です。僕たちは、彼女に求められて、今できる最善の医療を提供したけなです。ところ

表2 思春期・FPホットラインの相談内容の変遷(95年度・05年度・15年度)

	男性			女性		
	95年度	05年度	15年度	95年度	05年度	15年度
総相談件数	4,865	3,745	1,315	1,953	3,219	705
緊急避妊法	18.5	20.4	20.9	-	37.0	29.9
自慰	17.7	17.0	17.8	26.2	6.8	10.1
性器	11.7	8.2	17.8	-	6.9	7.7
性欲	7.2	7.3	8.3	-	-	6.8
射精	9.2	10.5	7.9	17.9	5.5	4.4
性交	7.4	4.8	4.0	12.1	7.9	4.2
問題行動	4.3	2.5	3.8	5.0	3.1	4.2
精神・心	3.6	2.2	3.8	3.2	0.7	4.0
男女交際	-	1.3	2.4	4.6	4.1	3.7
近親姦	2.5	3.6	1.7	1.1	0.5	3.0
STD	1.3	3.6	1.4	-	1.0	2.5
緊急避妊法	-	0.0	1.4	0.3	0.8	2.4
妊娠不安	-	0.0	1.3	2.0	0.6	2.0
病気	2.2	2.7	1.2	1.5	1.1	1.7
妊娠	1.5	2.1	1.2	4.4	2.3	1.6
避妊	2.0	1.9	0.7	2.7	1.1	1.6
二次性徴	-	-	0.4	-	-	1.0
Eイズ	0.9	0.2	0.2	0.3	0.1	0.6
中絶	0.2	0.1	0.1	1.5	0.7	0.4
不妊	0.2	0.1	0.1	1.1	0.7	0.3
夫婦問題	0.8	0.3	0.0	0.4	0.1	0.3
ピル	-	-	0.0	0.5	0.1	0.0
その他・性知識	2.6	3.4	0.5	2.3	1.5	1.1
その他	6.2	7.8	3.1	12.5	17.4	6.5
不明	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0

による電話相談が、さらに東京都から委託された電話相談などが各種開設され今日に至っている。91~95年度に「避妊とEイズ電話相談」1万2,572件(男性5,692件、女性6,880件)、2000~04年度は「ピルダイヤル」8767件、01~09年度に「ピルサポートデスク」1万5,684件、04年度からは「OCサポートコール」5万9,007件、10年度から「OCコール」42,100件、96年度から「東京都不妊・不育ホットライン」1万3,205件、10年度から「ミレーナコール」9,155件、14年度までを占めている。



特定領域編③ シリーズ

遺伝相談

●病因と病態

ターナー症候群(TS)はX染色体の完全欠失、部分的欠失、モザイクなどにより発生する先天異常であり、その頻度は出生児の2千人に1人程度である。

染色体の欠失やモザイクの程度により、さまざまな合併症を呈する。多くの症例は小児期に低身長で診断され、小児科で成長ホルモン治療を受けた後に、思春期に無月経に対してエストロゲン補充療法を開始し、産婦人科や内分泌内科などの成人診療科へ移行して、成人期の診療が行われる。他の合併症としては、

●健康管理の要点

小児期には心血管疾患、腎疾患、中耳炎などの、成人期では不妊症、骨粗しょう症、甲状腺機能異常、耐糖能異常、高血圧、脂質異常症などのリスクが高い。

当科では女性特有の内分環境に起因する「健康問題」を扱う専門外来として「女性健康外来」を設け、その中で成人TS女性の診療を行っている。2015年8月の時点で当科管理下のTS女性104人について診療内容を検討した。

平均身長145.7cm、体重46.6kg、BMI

横浜市立大学附属市民総合医療センター 診療教授 婦人科部長 神原 秀也

ターナー

I 22・0。染色体核型は45,Xが19.2%。モザイクが42.3%。構造異常26.9%であった。月経異常は原発性無月経85人(81.7%)、続発性無月経8人(7.7%)であり、有月経症例は11人(10.5%)であった。

健康管理の要点は、①卵巣機能不全に対するホルモン補充療法の小児期に発症した合併症の管理 ②成人期に発症するリスクのある合併症の検診である。

そのためにスクリーニングを行っている。具体的には受診時に毎回、血圧・体重を測定し、血液(末血、肝機能、腎機能、耐糖能、脂質、甲状腺機能)を測定し、

③成人期に発症するリスクのある合併症の検診である。

そのためにスクリーニングを行っている。具体的には受診時に毎回、血圧・体重を測定し、血液(末血、肝機能、腎機能、耐糖能、脂質、甲状腺機能)を測定し、

④成人期に発症するリスクのある合併症の検診である。

そのためにスクリーニングを行っている。具体的には受診時に毎回、血圧・体重を測定し、血液(末血、肝機能、腎機能、耐糖能、脂質、甲状腺機能)を測定し、

⑤成人期に発症するリスクのある合併症の検診である。

そのためにスクリーニングを行っている。具体的には受診時に毎回、血圧・体重を測定し、血液(末血、肝機能、腎機能、耐糖能、脂質、甲状腺機能)を測定し、

⑥成人期に発症するリスクのある合併症の検診である。

そのためにスクリーニングを行っている。具体的には受診時に毎回、血圧・体重を測定し、血液(末血、肝機能、腎機能、耐糖能、脂質、甲状腺機能)を測定し、

⑦成人期に発症するリスクのある合併症の検診である。

そのためにスクリーニングを行っている。具体的には受診時に毎回、血圧・体重を測定し、血液(末血、肝機能、腎機能、耐糖能、脂質、甲状腺機能)を測定し、

⑧成人期に発症するリスクのある合併症の検診である。

そのためにスクリーニングを行っている。具体的には受診時に毎回、血圧・体重を測定し、血液(末血、肝機能、腎機能、耐糖能、脂質、甲状腺機能)を測定し、

⑨成人期に発症するリスクのある合併症の検診である。

そのためにスクリーニングを行っている。具体的には受診時に毎回、血圧・体重を測定し、血液(末血、肝機能、腎機能、耐糖能、脂質、甲状腺機能)を測定し、

職域保健の現場から

アサヒビール株式会社 住徳 松子
博多工場健康管理室 保健師

女性労働者活躍推進と子育て支援の現状

第30回となる今号は、企業における女性の就業と育児を支える取り組みを紹介いたします。まずは大企業における事例として、アサヒビール株式会社・住徳松子さんにご寄稿いただきました。(編集部)

◆ダイバーシティ推進と企業活動
アサヒビールは1889年に創業し、スーパードライをはじめとしたビール類を製造販売している会社です。2000年代に入り酒類のみならず食品業界のM&Aを進め、現在では100社余りのグループ会社と、2万人超の従業員を抱える総合食品企業となりました。また、2011年には酒類・食品業界の競争のグローバル化など経営環境

境が大きく変革する中、国内外の成長領域へより大胆な資源配分を可能とするため、純粋持株会社のアサヒグループホールディングス(HD)に移行しました。HD化する中で、各グループ会社との人事交流も盛んになりますが、一方で少子高齢化が進行する中、優秀な労働力を確保するため、14年にグループダイバーシティ推進室を設置しました。ダイバーシティとは、性別、年齢、障がいの有無、国籍などの違いにかかわらず、全ての社員がいきいきと働くための支援をしていくことです。アサヒグループHDでは、まずは女性労働者活躍推進のための活動を展開してまいりますので、簡単に紹介したいと思います(図1)。

◆女性労働者活躍推進のための諸制度
女性労働者を取り巻く問題は、妊娠・出産による離職、妊娠中・胎児への健康影響、最近の話題ではマタニティハラスメントなどの倫理問題など多岐にわたります。それらに対し国は、男女雇用機会均等法の改正や、働く女性の母性健康管理措置、母性保護規定として妊娠中の健診時間の確保や、妊娠・出産等を理由とする不利益取扱の禁止など、労働基準法の改正などの法整備を進めています。

07年には事業者に対し、妊娠中および出産後の女性労働者が、医師等から指導を受けた場合は「母性健康管理指導事項連絡カード」を活用し、妊娠中の通勤緩和や作業の制限休業等の措置を講じるよう定めています。

◆女性活用推進の取組
ご存じのように、1992年に施行された「育児介護休業法」により、子どもが1歳(必要な場合は1歳6か月)まで、父母のどちらかが育児休暇を取得できるようにになりましたが、弊社でも男性社員の取得はごく一部で、女性社員についても制度上は最大2年取得できますが、第2子の保育園問題などもあり、1年程度の取得が大変です。しかし、男女社員ともに弊社の子育て期間の支援は手厚いものがあり、図2に示してありますが、妊娠から学童期までさまざまな支援制度が準備されています。一部をご紹介します(図1)。

妊娠中の通勤緩和や作業の制限休業等の措置を講じるよう定めています。

◆女性活用推進の取組
ご存じのように、1992年に施行された「育児介護休業法」により、子どもが1歳(必要な場合は1歳6か月)まで、父母のどちらかが育児休暇を取得できるようにになりましたが、弊社でも男性社員の取得はごく一部で、女性社員についても制度上は最大2年取得できますが、第2子の保育園問題などもあり、1年程度の取得が大変です。しかし、男女社員ともに弊社の子育て期間の支援は手厚いものがあり、図2に示してありますが、妊娠から学童期までさまざまな支援制度が準備されています。一部をご紹介します(図1)。

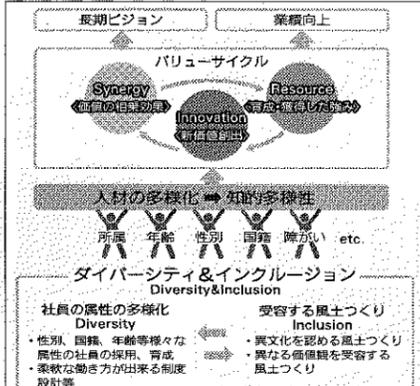


図1 アサヒグループのダイバーシティ推進

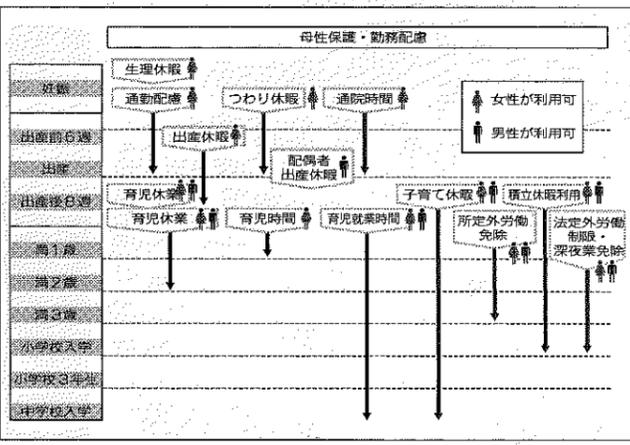


図2 出産・子育て支援の全体像(時系列)

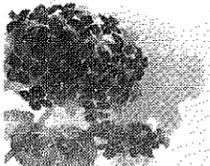
海外情報クリップ

◆長期の予防効果を検証
米疾病予防管理センター(CDC)では、米
国全国健康栄養調査と呼
ばれる調査を毎年行っ
ており、参加した米国民は
家庭訪問によるインタビ
ューを受け、その後調査
項目に沿って必要な検査

HPVワクチン導入から 6年で10代女子の感染率 は3分の1以下に

—米疾病予防管理センター(CDC)—

◆長期の予防効果を検証
米疾病予防管理センター(CDC)では、米
国全国健康栄養調査と呼
ばれる調査を毎年行っ
ており、参加した米国民は
家庭訪問によるインタビ
ューを受け、その後調査
項目に沿って必要な検査



◆長期の予防効果を検証
米疾病予防管理センター(CDC)では、米
国全国健康栄養調査と呼
ばれる調査を毎年行っ
ており、参加した米国民は
家庭訪問によるインタビ
ューを受け、その後調査
項目に沿って必要な検査

◆長期の予防効果を検証
米疾病予防管理センター(CDC)では、米
国全国健康栄養調査と呼
ばれる調査を毎年行っ
ており、参加した米国民は
家庭訪問によるインタビ
ューを受け、その後調査
項目に沿って必要な検査

◆長期の予防効果を検証
米疾病予防管理センター(CDC)では、米
国全国健康栄養調査と呼
ばれる調査を毎年行っ
ており、参加した米国民は
家庭訪問によるインタビ
ューを受け、その後調査
項目に沿って必要な検査

ヤッペ法と比較した レボノルゲストレル 緊急避妊薬の効果

◆カナダの大規模調査
国際緊急避妊薬(イ
シエム)による避妊
効果を検証した。同
様にヤッペ法と比較
した。結果、ヤッペ
法は、エチニル
エストロジオール・
レボノルゲストレル
の効果を高めた。

◆女性アスリートのAC
L損傷リスクを減らす
スポーツ選手の膝前
十字靭帯(ACL)の損傷は
男性よりも女性に数倍多
いといわれています。こ
れは、関節の靭帯はコラ
ゲンが含まれ、女性ホル
モンであるエストロゲン
の影響を受けやすいか
らと考えられています。

経口避妊薬 (OC)の副作用

◆女性アスリートのAC
L損傷リスクを減らす
スポーツ選手の膝前
十字靭帯(ACL)の損傷は
男性よりも女性に数倍多
いといわれています。こ
れは、関節の靭帯はコラ
ゲンが含まれ、女性ホル
モンであるエストロゲン
の影響を受けやすいか
らと考えられています。

OPEN HOUSE
相談員の
リレーエッセー

◆長期の予防効果を検証
米疾病予防管理センター(CDC)では、米
国全国健康栄養調査と呼
ばれる調査を毎年行っ
ており、参加した米国民は
家庭訪問によるインタビ
ューを受け、その後調査
項目に沿って必要な検査

女性のからだの悩みと生理痛のサイト
生理のミカタ
http://seirino-mikata.jp
生理のツライ症状や気になる生理不順
ひとりでガマンしたり悩んだりしていませんか?
「生理のミカタ」はそんなあなたをサポートするサイトです。
★あなたのミカタになるコンテンツがいっぱい★

みんなのハテナに答えるサイト
避妊のススメ
http://hininno-susume.jp
産みたい時に産むために
一緒に学ぼう
避妊のススメ
ヒトにはなかなか聞けない避妊のこと、
一緒に学んで正しい知識を身につけよう!

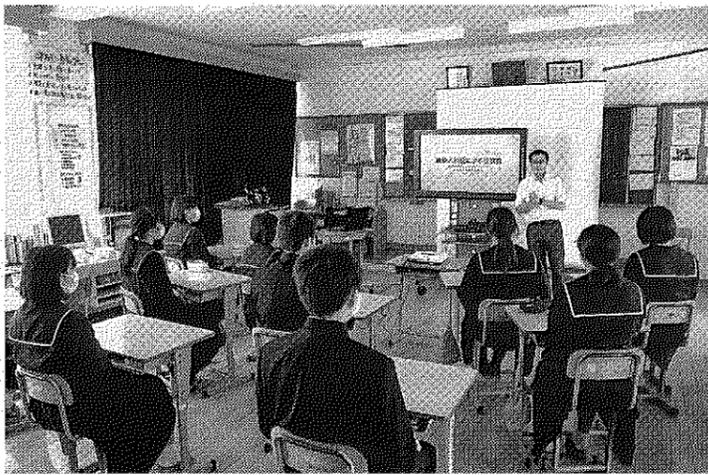
ちょっとりやく、わたしメンテナンス
オトナ女子、ハッピーに過ごすために知っておきたいこと
更年期のココロエ
http://konenkinokokoro.jp
更年期のココロエ
「わたしメンテナンス」
はじめませんか。

産婦人科医による性の健康教育「私のキーワードはこれだ!」その15 小さな自治体からコツコツと

宮崎県立宮崎病院(宮崎県宮崎市) 高村 一紘

中山間地域における性教育

私は中山間地域にある西米良中学校に昨年からお願いで、性教育に出向いています。西米良村は熊本県との県境に位置し、唯一の医療機関である診療所に3年間勤務して



そこでは、子どもから高齢者まで、外来、入院、訪問診療、救急医療など全てを担い、予防・医療・介護を保健センターや地域と一体となつて関わっていました。この地域の子供たちは、中学校卒業と同時に村を離れて高校に進学します。そのため、プライマリケア医の頃から中学卒業前

生きていくために必要な力

公立病院で産婦人科医として勤務するようになったら、妊娠や性に関する問題に悩む機会が多くなりました。また、避妊教育ネットワーカーである事例を学ぶに連れて、問題が起きてからでは遅いという思いが強くなりました。まずはこれまでの経験で連携の取りやすい西米良村で性教育を行うことにしました。

性教育という予防医療

また、大切にしてほしいことだと思つています。プライマリケア医のときは、性教育をはじめとする女性のヘルスケアを担うのは、主に産婦人科医だと思つていました。しかし、実際には産婦人科、内分科、腫瘍科、不妊科、女性のヘルスケアまで手が回っていないので、内容は月経、妊娠、避妊、中絶、避妊、D.V、性感染症、子宮頸がんなど、産婦人科医として基本的な知識を伝えることも大切です。しかし将来、性に関する問題に直面したときに「こんな話をしておしやう」と思つて

編集後記

前号に引き続き、新入社員の紹介をさせていただきます。では、後さん、お願いします。「僕、健康と申します。大学院まで進み社会学を学びました。赤ん坊の遺

今月の人 高村 一紘

2005年、自治医科大学卒業。産婦人科学会専門医。日本プライマリケア連合学会指導医。椎葉村国民健康保険病院や西米良村国民健康保険病院でプライマリケア医として地域医療に従事し、現在、宮崎県立宮崎病院産婦人科兼地域医療科に勤務。



ポスター・パネル 梅毒急増しています!



梅毒が急増しています。2010年での梅毒感染者届出数は621件(男497件、女124件)。これが2015年には、2698件(男1934件、女764件)と、この5年間で、およそ4.3倍にまで増えているのです。



ジャフパ情報

粘膜に異常があったらすぐに受診し、感染拡大を防ぐことが、社会全体の急務となっています。その啓発のために作られたのが、「梅毒急増しています!」ポスターやパネルとして所内や院内などに掲示することです。自分の感染を疑っている人には検査の背中を押す、そうでない人には感染への注意を促すように作られています。

送付先の変更 購読中止について

新聞の送付先住所や宛名の変更、また購読中止の場合は、変更内容などをご連絡ください。

避妊情報サイト

かしこく、正しく、自分らしく あなたが選ぶ避妊スタイル

このサイトはOC(低用量経口避妊薬)や避妊についての正しい知識を身につけていただくことを目的としています。

<http://www.hinin-style.jp> 避妊スタイル 検索



MSD株式会社 〒102-8567 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア <http://www.msd.co.jp/>

2015年2月作成 MAV15AD003-0220